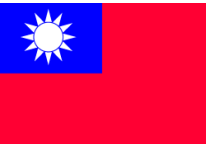


台湾

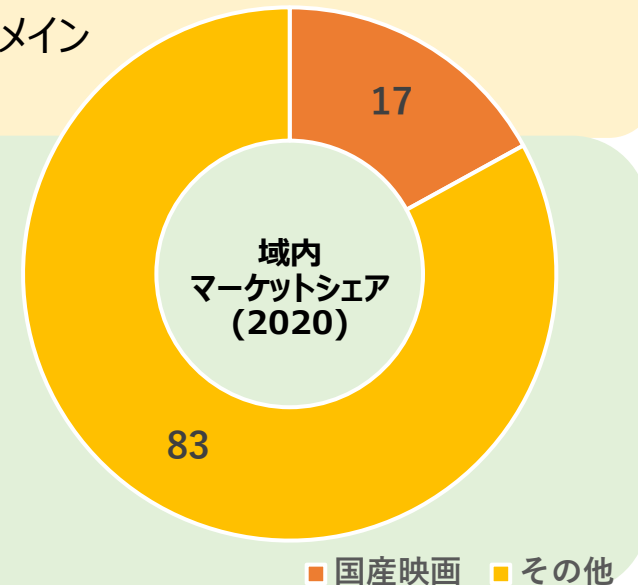


映画産業

- ・興行収入、動員数、スクリーン数は年々堅調に増加
- ・協定を介した国際共同製作は無く、外国映画のロケ誘致の際の共同制作がメイン

域内市場

- ・台湾の興行収入は1割程度（2020年は微増）
- ・公開本数/興行収入共にハリウッド映画のシェアが圧倒的、作品別の成績でも上位を占める
- ・公開本数はアメリカに次ぎ日本が2位、ただし興行収入は韓国が上回る
- ・中国作品の公開は年10本程度とする制限あり



市場データ (2020年)

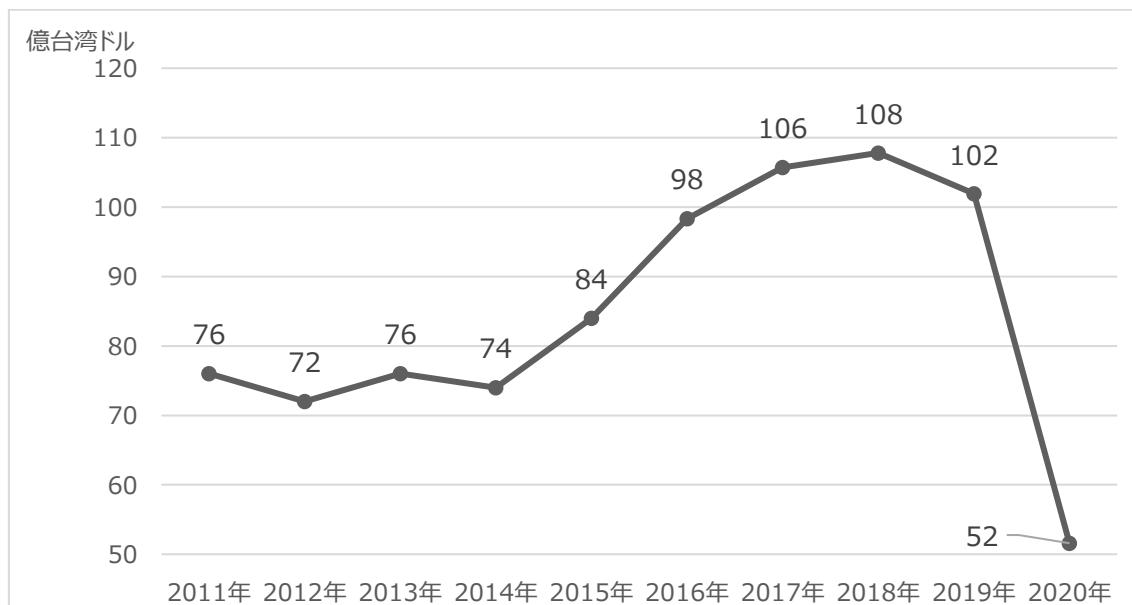
- | | |
|-----------------------|-------------------------------|
| ・国内興行収入: | 51.59億台湾ドル（2019年：101.91億台湾ドル） |
| ・国内の劇場動員数: | 2183万人（2019年：4320万人） |
| ・国内のスクリーン数: | 928（2019年：918） |
| ・平均チケット価格: | 236.33台湾ドル（2019年：235.90台湾ドル） |
| ・一人あたりの年間平均入場回数: | 0.92回（2019年：1.83回） |
| ・マーケットシェアにおける国産映画の割合: | 17%（2019年：6.9%） |
| ・映画新作公開本数: | 40本（2019年：48本） |

台湾の域内市場規模

1. 興行収入 (2011-2020¹)

* 近年順調に増加していたが、2020年は前年の半分程度に落ち込んだ。

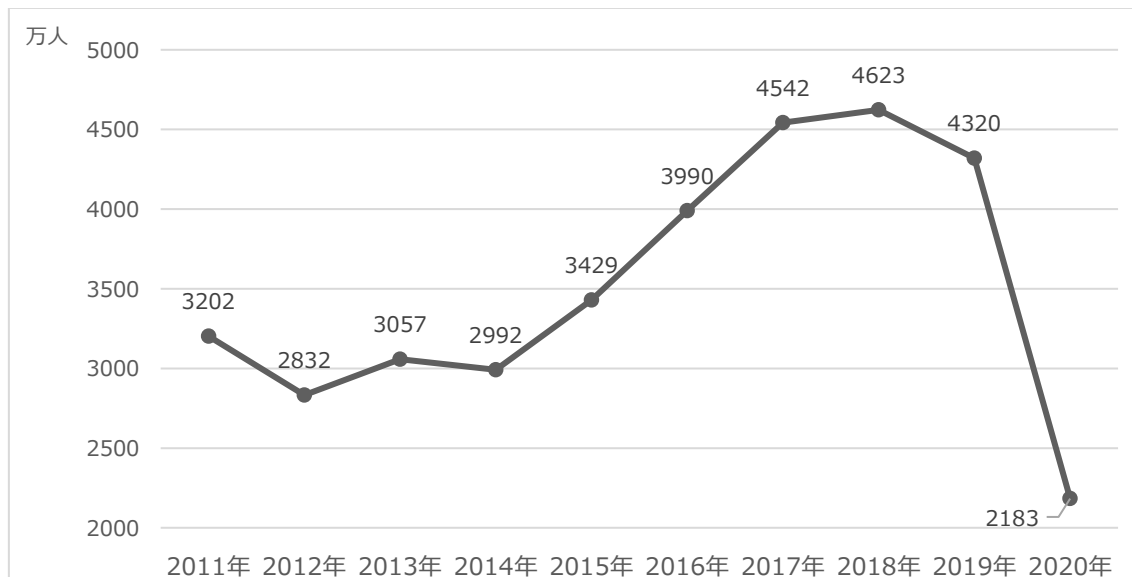
図 台湾域内の劇場興行収入 (グラフ)



2. 動員数 (2011-2020)²

* 近年、興行収入と比べて堅調に増加していたが、2020年は前年比半分程度となった。

図 台湾域内の劇場動員数 (グラフ)



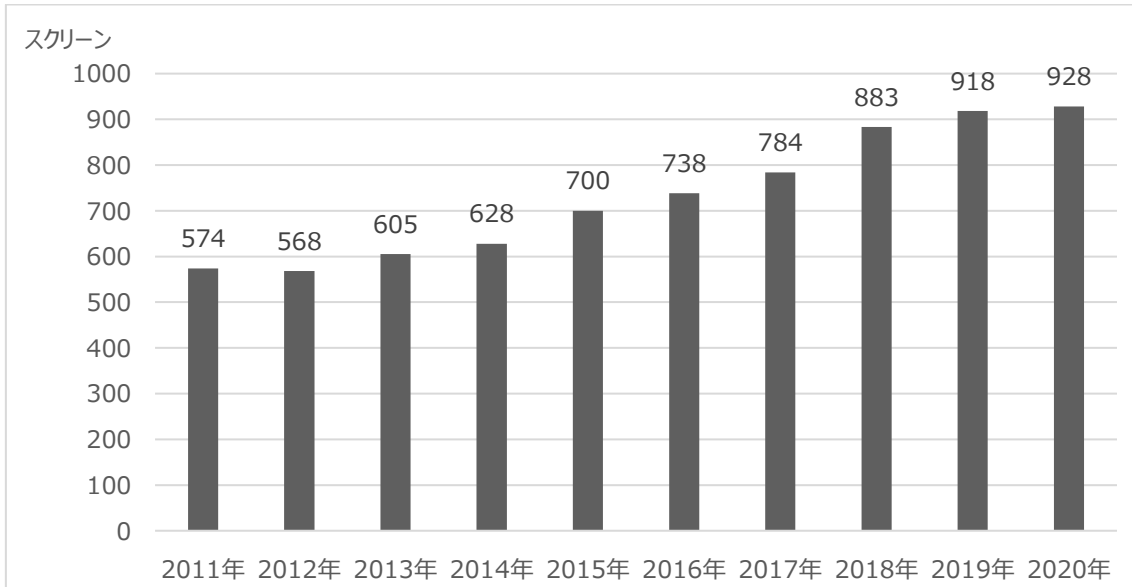
¹ 文化部発行「電影市場動態」を元に作成 https://www.bamid.gov.tw/informationlist_243_1.html

² 同上 ただし 2015年と2016年の動員数はデータ無く、興行収入総計÷チケット単価で概算し四捨五入

3. スクリーン数 (2011-2020) ³

* 順調に増え続け、10年で400スクリーン弱増加した。

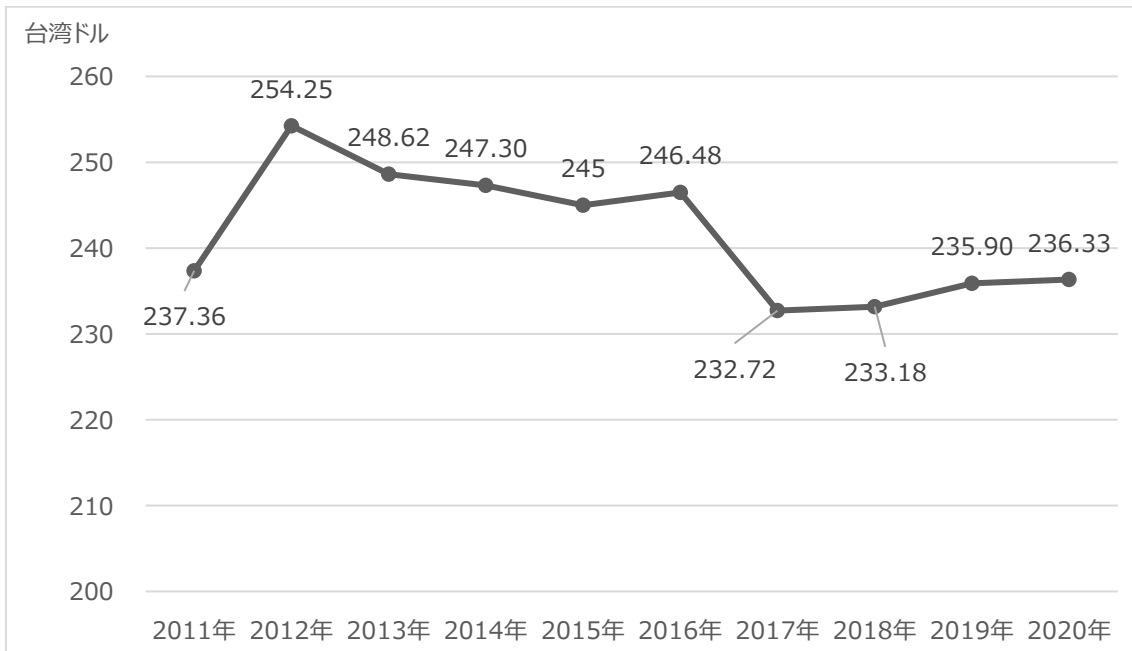
図 台湾域内のスクリーン数 (グラフ)



4. 平均チケット価格 (台湾ドル) (2011-2020) ⁴

* チケット価格は減少気味だが、近年は230台湾ドル程度で落ち着いている。

図 台湾域内の平均チケット価格 (グラフ)



³ データ参照 European Audiovisual Observatory 発行「FOCUS」2011年版～2020年版を元に作成

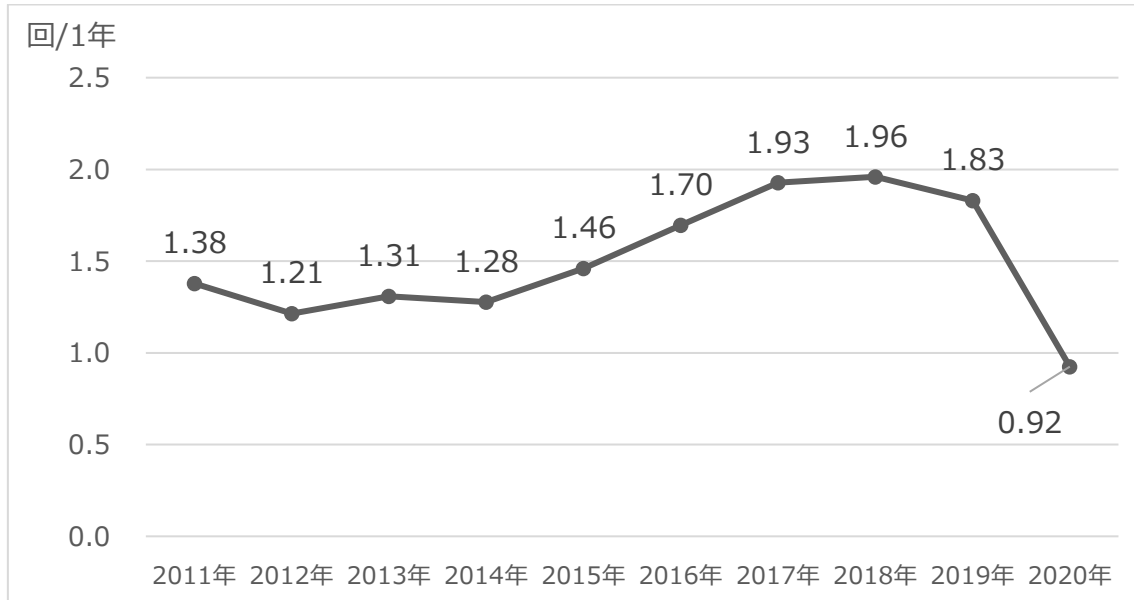
⁴ データ参照 文化部発行「電影市場動態」を元に作成 https://www.bamid.gov.tw/informationlist_243_1.html

ただしデータがないものは、興行収入÷動員数で算出

5. 一人あたりの年間平均入場回数（2011-2020）⁵

* 近年順調に増えてきていたが、2020年は前年比で半分程度に落ち込んだ。

図 台湾域内の一人あたりの年間平均入場回数



6. マーケットシェアにおける台湾映画の割合（2011-2020）⁶

* 台湾映画の割合は大きな変動はなく、1割前後を推移している。2020年は17%に上昇した。

図 台湾域内のマーケットシェアにおける台湾映画の割合



【注釈】2017年までは台北市の数値のみを集計しているため、参考データとする。

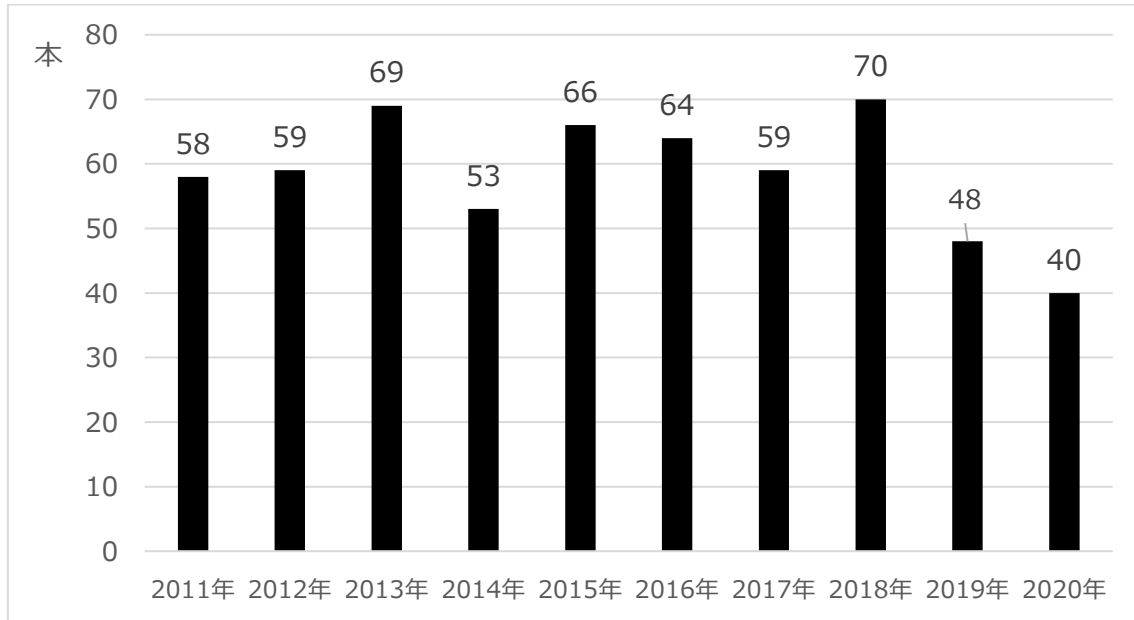
⁵ 既存データをもとに算出（人口÷動員数）

⁶ 文化部発行「電影市場動態」を元に作成 https://www.bamid.gov.tw/informationlist_243_1.html

7. 映画製作本数（2011-2020）⁷

* 年により変動がある。ここ数年は減少傾向にあり。

図 台湾域内の映画製作本数(グラフ)



【注釈】製作本数は変動が大きく統計が取りにくいことに加え、台湾では映画制作が完了したことを報告する義務がないため、正確な数字は不明。本データは新作として公開された台湾映画の公開本数である。

⁷データ参照 European Audiovisual Observatory 発行「FOCUS」2011年版～2020年版を元に作成